

2024年4月9日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

生成 AI 活用により 10 万 6,000 時間/月の業務時間を創出 約 80%のパートナーの活用で、さらに 1 万時間を創出 ～「AI 活用 No.1 企業グループへ」向けて定点調査を実施～

“すべての人にインターネット”をスローガンに、インターネットインフラ、広告、金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、生成 AI の活用を進めています。その結果、グループ全体で約 10 万 6,000 時間/月（前回調査差+約 1 万時間）、国内パートナー（従業員）の約 11%にあたる 663 人月（前回調査差+63 人月）に相当する業務時間を創出しました。（※1）（※2）（※3）

前回の調査以降も、生成 AI の活用促進に向けた「AI（愛）しあおうぜ！プロジェクト」を中心に取り組みを進めた結果、生成 AI の活用率が 78.7%（シフト勤務を除く）と大幅に向上したことが要因です。

GMO インターネットグループは、今後も定期的にパートナーの生成 AI の活用状況を調査してまいります。そして、すべてのパートナーが AI を活用できる人財となり、創出した時間でよりクリエイティブな業務へ転換し、AI を活用した各種プロダクトやサービスの開発を加速することで、すべての人の「笑顔」と「感動」につなげてまいります。

（※1）国内全パートナーの約 73%にあたる 4,287 人が生成 AI を活用していると仮定し算出。

（※2）ひと月労働時間は（1 日の勤務時間 8 時間）×（平均の営業日 20 日）=160 時間で算出。

（※3）[プレスリリース] 生成 AI 活用により 9 万 6,000 時間/月、国内パートナー数の 10%にあたる 600 人月相当の業務時間を創出（<https://www.gmo.jp/news/article/8680/>）

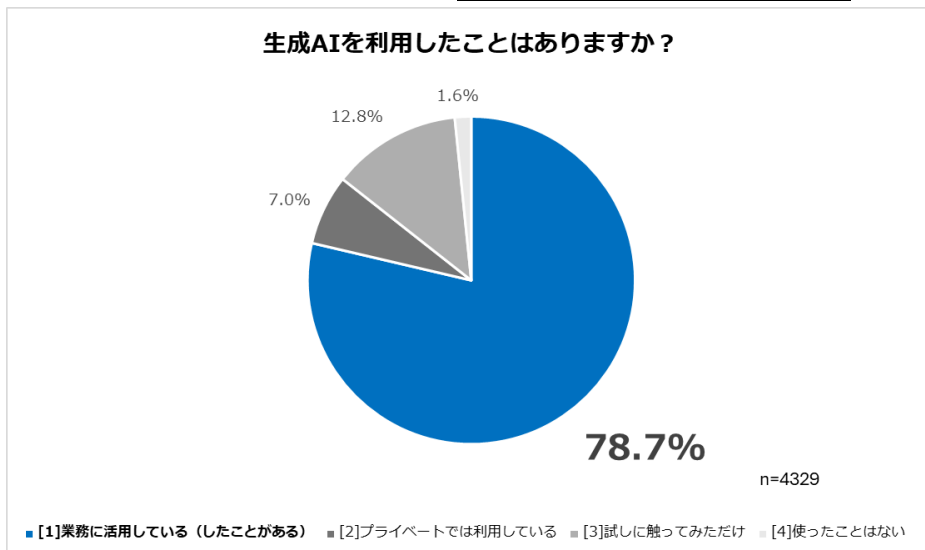
【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

■ 調査概要

2024 年 3 月 11 日（月）から 15 日（金）にかけて、GMO インターネットグループの国内パートナー（正社員、派遣社員、アルバイト）5,857 人を対象に（有効回答 5,235 人）アンケートを実施しました。

■ 調査結果・分析サマリ

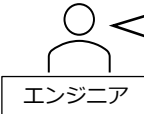
- 78.7%の国内パートナー（シフト勤務除く）が生成 AI を「業務に活用している」と回答した。（※4）



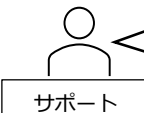
- 国内パートナー（シフト勤務含む）の73.2%が生成 AI を活用したことにより、ひと月あたり約 **10万6,000時間**、国内パートナー数の約11%にあたる **663人相当の業務時間を創出した**。これは、前回2023年11月の調査時点と比べて、1万時間、63人月の増加となる。
- 業務に生成 AI を活用しているパートナー1人あたりの業務削減時間は24.7時間/月（前回調査：24.6時間/月）と大きく変わっていない。よって、**グループ内での生成 AI の業務活用率が向上したことが、時間創出につながったと考えられる。**
- 生成 AI を業務活用していると答えたパートナーのうち57.7%が有料ツール（「ChatGPT Plus」や「GitHub Copilot」等）を活用している。また、すでに有料ツールを利用しているパートナーの **98.9%が継続利用を希望しており、活用によるアウトプットに満足していることがうかがえた。**さらに、調査時点で有料ツールを使っていない人の74.2%が利用を希望していることが分かった。

（※4）シフト勤務とは、派遣パートナー（従業員）、アルバイト等のパートナーのこと。シフト勤務を含む業務活用率は、**73.2%**（前回**66.3%**）で6.9ポイント増加した。

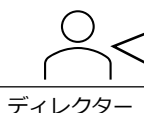
【AI活用を行うパートナーの声、活用実績】（※5）



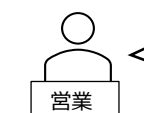
エンジニア
論文等の要約で「ChatGPT」を使った。1か月間で4時間程度リサーチ時間を削減できた。



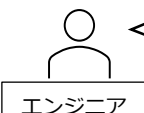
サポート
問い合わせの一次対応を AI チャットに置き換え、1か月あたりの対応問い合わせ数を削減できた。（昨年比で1か月あたり189件減）



ディレクター
既存の翻訳原稿を最新の情報に一部アップデートする際、ベトナム語とタイ語の差し替箇所を検討で「ChatGPT」を活用し、簡単に情報更改ができた。1回あたり3時間から1時間に時短できた。



営業
複数のデータベースを統合したり変換したりする Excel マクロのコード生成を AI で作成し、1日30分から1時間の工数削減につながった。



エンジニア
不慣れな言語で作成されたアプリケーションの改修作業時に「GitHub Copilot」、「Chat GPT」を補助的に活用して作業した。合計10時間程度は削減できた。

（※5）生成 AI の活用においては、グループ各社で利用規定を策定・順守した上で、非開示情報や個人情報の入力、著作権侵害等に配慮して業務を実施しております。

■有料ツールの活用状況

自由記述により、活用している具体的な有料ツールを調査しました。（自由記述の出現が多い順に記載）

1. GitHub Copilot（開発者支援）
2. ChatGPT（文章生成・画像生成等）
3. Midjourney（画像生成）
4. Gemini（文章生成）
5. Claude（文章生成）
6. Canva（デザイン）
7. DeepL（翻訳）

8. miibo（会話型 AI 開発）
9. Notion（文章生成・タスク管理等）
10. Adobe Firefly（画像生成）

【コメント】

■ GMO インターネットグループ株式会社

「AI（愛）しあおうぜ！プロジェクト」プロジェクトリーダー 李 奨培（り じゃんべ）

「さらなる活用推進の啓蒙活動に加え、高度な AI 活用が非エンジニアでも行えるように、ツール等の環境整備と、リスキリングの教育プログラムを実施しています。このアンケートだけではなく、捻出した時間の可視化やその時間を活用した提供サービスの質向上に関しても、今まで以上に加速させていきます。」

【GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■ ①時間とコストの節約

<例>

1. 2023 年 4 月より賞金総額 1,000 万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施しました。AI に関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装されました。
2. AI に関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
3. AI に関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトや GPTs の共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
4. 非エンジニアを対象としたリスキリング施策として、社内の有識者が講師となり、3 か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
6. Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。

■ ②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。

詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

■ ③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023 年 5 月 24 日に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI & Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/8677/>)
3. 2023 年 12 月には NVIDIA 社とパートナー契約を締結し、NVIDIA のパートナープログラムである「NVIDIA Partner Network」に参画しました。NVIDIA との協業を加速させ 100 億円規模の GPU

サーバーを取得することとしています。

(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)

4. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)

【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 106 社に在籍する約 7,400 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50.1%を占めています。(※6)

(※6) 2023 年 12 月末時点

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループコミュニケーション部 広報担当 青柳

TEL : 03-5456-2695

問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

会 社 名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業 ■暗号資産事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2024 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.